

令和4年度豆類振興事業(試験研究助成費)の成果概要

①課題:小豆コンバイン収穫向け系統における選抜・評価体系の最適化と開発強化
(4~6年度)

代表者:(地独)北海道立総合研究機構 十勝農業試験場研究部 研究職員 長澤秀高

目的

コンバイン収穫向け系統選抜指針による選抜を強化し、選抜指針の有効性を実証する。加えて、多様な草型の遺伝資源からコンバイン収穫時の収穫損失の低下に寄与する形質を明らかにすると共に、より効率的な収穫損失評価手法を検討する。

成果

①コンバイン収穫向け系統選抜指針による選抜強化

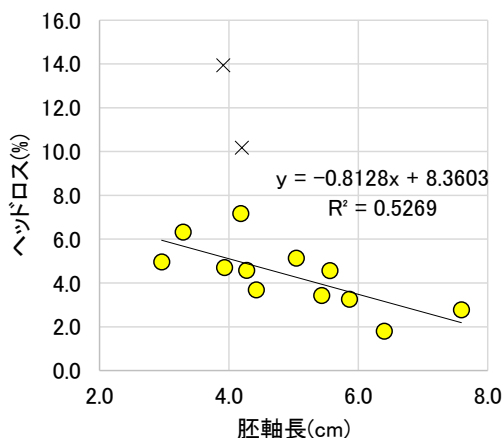
・比較品種「きたろまん」より地上10cm莢率は低く、子実重は同等~重い7系統を選抜した。

②コンバイン収穫向け有望系統のヘッドロス評価

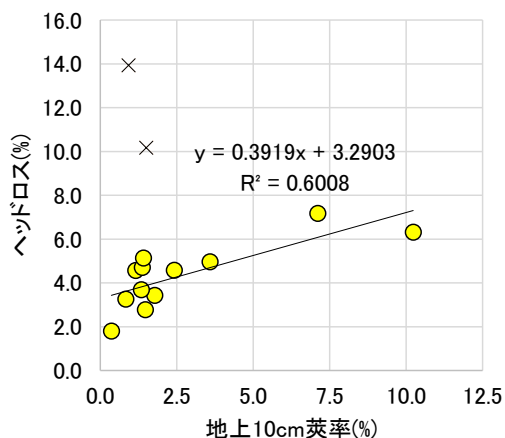
・胚軸長及び地上10cm莢率とヘッドロスの間には刈残しが多発した2系統(十育185号、十系1412号)以外の12品種系統でそれぞれ相関が認められた。
・コンバイン収穫向け選抜指針の有効性が示唆された。

③コンバイン収穫向け草型モデルと評価体系の最適化

・育成系統、在来品種等140点の遺伝資源は草型調査結果に基づき、6つのクラスタに分類し、各クラスタから次年度の供試材料を選抜した。
・慣行法ではヘッドロスが収穫ロス全体の約9割を占め、ヘッドロスを指標とするロス発生評価の有効性が確認できた。



胚軸長とヘッドロスの関係



地上10cm莢率とヘッドロスの関係

注) ×は刈残しが多発した2系統(十育185号、十系1412号)を示す。